The Bulletin of Seisa Dohto University
No.5, 85－92, 2024

研究ノート

星槎道都大学　経営学部「経営学総論」の コロナ禍における影響に関する考察

信　濃　吉　彦

要約

「経営学総論」とは，本学の経営学部生に対して必修必得科目の中で１年次生に課せられている座学の講義である。この科目に関するコロナ禍における状況分析を試みているのが本稿である。できればコロナ禍前の状況との比較も行いたかったが資料の関係で今回は直近の３年間に絞って考察する。

１．はじめに

本稿は，星槎道都大学経営学部における初年次必修科目「経営学総論」履修者のコロナ禍における学習状況に関して考察を加えた研究ノートである。本稿の目的は，経営学の初学者としての本学初年次生がその入門科目としての最重要座学における学習に関して，直近３年間の実態分析を通して問題点を明確にすることとその対策を思考することにある。

2019 年暮れに世界的に認知された新型コロナウイルス COVID-19 が国内の学際に与えた影響は計り知れず，新時代の幕開けになったことは疑いようがない。2020 年１月 16 日国内１例目の感染者が確認され，その後全世界の教育機関が対面授業に対する制限を打ち出し，新年度・新学期または現・当該学期におけるリモート授業等，非対面での教育環境の整備に忙殺された。特に日本国内においては諸外国と比べて教育環境の ICT 化が遅れており，各大学においてリモートの講義をどのように進めていくか混乱を喫した。

幸い本学においては，講義用ソフトをマイクロソフト社のチームズに決定し，全学生へのダウンロード，使用方法の説明会，Wi-Fi 環境の確認等大学の規模に即した素早い対応が功を奏し近隣大学の中で一番早く 2020 年の６月には対面･リモートの両方で授業を再開することができた。しかしながらこれらの事実は，それ以前の高等教育機関における価値観や習慣を一変させただけではなく，解決すべき問題点の数々を我々に突きつけることとなる。

２．経営学総論とは

「経営学総論」とは，本学の経営学部生に対して必修必得科目とされているいくつかの科目の中で「スタートアップ演習」と双璧を成す，１年次生第１クォータの主要科目である。

その構成は，簡単な経営学史を導入に今後学習する各経営学分野の重鎮とその理論，代表的な分析方法およびそのフレームワークから各種専門タームの定義等，初学者にとっては楽しくもあり難しくもある重要科目となっている。その詳細を下記に列挙する。

・ビジネスの定義と歴史
・テイラーと科学的管理法
・メイヨーとホーソン実験　経営学と心理学の融合

・ファヨールと管理原則
・チャンドラー　歴史学と経営学の融合
・アンゾフと経営戦略論
・ポーターと差別化戦略
・コトラーとマーケティング
・SWOT 分析　PPM　PEST 分析　STP
・外国為替　株式市場
・機会費用と損益分岐
・PDCA サイクル
・需要の法則　供給の法則　代替効果と収入効果　等

３．状況分析

直近の３年間のデータから各年度の比較を行い，見え隠れする問題点や課題を考察する。

①．2021 年度新入生

本学学内で 21 生（ニーイチセイ）と呼ばれているこの年の新入生は，高校２年生後期の年明け（旧第３学期）からコロナ禍の影響を受けた学年である。18 か月に渡って通常の対面教育を受けていたことから，直近の３年間では１番コロナ禍の影響を受けていないものと考えられる。

開講時受講者数 149 名内１年生 147 名単位認定試験受験者数 146 名であった。授業の状況を判断する材料として本学の学務課が実施している授業評価アンケートにおけるコメントを列挙してみる。このほか小職の言動に対するクレームや「特になし」といったコメントが 18 件あったが授業内容に対する 33 件を紹介する。

基本的に遠隔授業対応ソフトとして採用したチームズは授業で使用した資料を履修者全員が閲覧できる形でコンピュータ上に載せておくことができる。このアンケートは単位認定試験の直前に実施されているが，その段階でもそれを知らない学生がいることは驚きを禁じ得ない。日々の学習を怠っている学生が相当数いることが推察される。

テスト前に出題問題をリビューしてもらえたのがとても助かりました。授業内で教科書を開くことが少なかったので，教科書を使った授業がもう少し増えたらいいなと思いました。
重要なキーワードは，何度も言ってくれるところ。
基本的にスピードを合わせて授業を進めてくれるのでとても受けやすかったです。
ノートを取るのがとても大変だったけど，授業の内容はとてもわかりやすかったです。
内容はとても面白かったです。 ノートを書く量は多かったです。
マイクで話す時少し声が大きくて聞き取れない時があった。
経営学についてとても深く学ぶことができた。
テストレビューが凄くありがたかった。 板書の時はノート書きやすいけど，スライドの時はノートを書きにくかった。
オンライン授業は始まる時間がバラバラでやりづらかった。
よかった所は説明が多い事で，改善してほしい所はノートの書く量が多いし，進むのがはやい所です。
わからないところや大事なところをもう一度確認できるようにしてくれた。
授業でやったことをしっかりとチームズに載せていた。
Word で授業を進めるのはいいのだが，もっと図を取り入れたりと分かりやすくして欲しかった。
話し方から先生の熱意を感じた。 気が引き締められた。そのおかげか今受けた授業のどれよりも静かで集中しやすかった。 授業の内容に対して話の脱線が多かったが，自分はノートを書き写すのがゆっくりなのでペース配分が作れて結果良かった。
経営学に興味を持つことができた。
個人的にはスライド変更速度を落として頂ければノートが書きやすいと感じました。
こまめな資料の配付があり，復習に役立てることができ良かった。
もう少し噛み砕いて説明していただけると有難いです。
スクリーンを使ったので重要点を抑えられた。 授業の進みがとびとびだったり知っている前提の単語が出てきたりで大変な所もあった。事前学習や自己学習の大切さを感じた。

もう少し対面授業でパワーポイントを見やすくして欲しいです。後ろの方が少し見えにくいです。
テストの問題を提示してくれる　調べるべき用語は知らせてくれる。
きちんとテストに備えれる勉強ができたのでよかったです。
課題などもきちんと提示してくたし，先生の講義に対する熱意が伝わったと思う。
対面の時のノートの量が多すぎた。
テストに出るところを解説してもらえなかったら点をとるのはとても難しい。
ノートを書く量が多くて大変だった。
授業に関しては特になし。課題，ノートなどわかりやすいものになっているので助かります。
テストレビューがあったおかげで少しはテスト勉強がしやすかったですが，授業が進むの早すぎるのはちょっと改善して欲しいところです。
全体への気配りがしっかりしていて集中して授業に取り組めました。
良かった点はノートを写せなくてもチームズに上がっているから時間のある時にきれいにノートをとることができたことです。
テストの範囲も的確に教えてくれたので勉強しやすかったです。
後ろの席だとスクリーンの文字が見えない。
今のままでも十分ですが席が１番後ろなのでもう少し文字を大きくしていただくとありがたいです。

令和３年星槎道都大学　学務課調べ

上記の通り，本講義をどのように履修すればいいのか理解し実践している学生と理解も実践もしていない学生が存在している。単位認定試験の結果は以下のようになった。

	経営学総論　結果比較（実数表示：再履修者＆未受験者を除く）															
		試験の得点比較					総合評価					グレード分布				
	対象学生	平均点	最高点	中間点	最低点	モード	平均点	最高点	中間点	最低点	モード	S	A	B	C	F
2021 年度１年生	146	68.54	91	74	4	81	78.39	96	79	17	70	15	50	64	12	5

2024 年小職作成

上記 21 生の GPA は 2.3972 であった。小職的にはターゲットレンジ 2.0〜2.5 の間に入っているのでこの結果に不満はない。

②．2022 年度新入生

本学学内で 22 生（ニーニーセイ）と呼ばれているこの年の新入生は，高校１年生後期の年明け（旧第３学期）からコロナ禍の影響を受けた学年である。わずか６か月間の通常対面教育期間を経てコロナ禍に突入したことから，直近の３年間では中間的な影響を受けたものと考えられる。

開講時受講者数 127 名内１年生 119 名単位認定試験受験者数 114 名であった。授業の状況を判断する材料として本学の学務課が実施している授業評価アンケートにおけるコメントを列挙してみる。このほか「特になし」といったコメントが３件あったが授業内容に対する 14 件を紹介する。

早く終わってくれる時があるからめっちゃよかったです！
とても難しかったです。 理解に苦しむ時間が多く，リベンジしたいです。
内容はとても難しかったのですが，経営をするのにあたって何が重要なのかを合理的に勉強できたので良かったです。
授業中の説明の仕方や，喋り方がとても理解しやすい説明でした，テストの範囲もとてもわかりやすかったです。
まとめの資料があって，とても助かりました！
よかった。

先生の話し方と説明のし方とても良かったです。優しくして教えていただいたことが良かった点です。
とても経営の心理について学ばされる授業だった。授業中に資料を見せる方式だったが，授業の中で見れなくなる時があったりしたので，授業前にデータを貼ってもらえるとより理解しながら学べると感じた。
雑学が面白い。
資料やスライドがとてもみやすく復習なども助けられた。ありがとうございます。
プリントや板書などがとてもわかりやすかった。
時間配分が良かった。
資料がとても見やすかったです。
教科書にそったやり方やそれ以外の知識を多く学ぶことが出来ました。

令和４年星槎道都大学　学務課調べ

上記の通り，21 生同様 22 生にも本講義をどのように履修すればいいのか理解し実践している学生とそうではない学生がいまだ存在している。単位認定試験の結果は以下のようになった。

	経営学総論　結果比較（実数表示：再履修者＆未受験者を除く）															
		試験の得点比較					総合評価					グレード分布				
	対象学生	平均点	最高点	中間点	最低点	モード	平均点	最高点	中間点	最低点	モード	S	A	B	C	F
2022 年度１年生	114	70.52	100	68	8	82	73.07	100	71	23	73	7	37	32	38	0

2024 年小職作成

上記 22 生の GPA は 2.114 であった。小職的にはターゲットレンジ 2.0〜2.5 の間に入っているのでこの結果に不満はない。

③．2023 年度新入生

本学学内で 23 生（ニーサンセイ）と呼ばれているこの年の新入生は，高校での３年間をすべてコロナ禍の影響下で過ごした学年である。高校での全教育期間においていわゆるコロナ禍シフト教育を受けていたことから，直近の３年間では１番コロナ禍の影響を強く反映しているものと考えられる。

開講時受講者数 116 名内１年生 105 名単位認定試験受験者数 100 名であった。授業の状況を判断する材料として本学の学務課が実施している授業評価アンケートにおけるコメントを列挙してみる。授業内容に対するコメントが 10 件あったのでそのすべてを紹介する。

わかりやすくおもしろい授業だった。
話が面白かったです。
授業で使った資料をチームズに上げてもらえるのがとても良かった。ノートを頑張って作って褒められて嬉しかった。
私が好きなスタイルの授業のやり方だったので文句のつけようがないほど面白かったです。是非今の授業スタイルを続けていただきたいです。 ゴールデンウィーク中に課題などを出していただけると助かります。これは課題が出る授業全部に言いたいことなのですが，大学に入った初めの方は課題などがなく暇です。
ビジネスについて理解が深まった。
資料があるため，写経の要請とその痕跡の提出は辞めて欲しい。
厳しいけどめっちゃ分かりやすくて良い。
ノートの文量の削減をして欲しい。
経営の雑学を織り交ぜながら講義をしていただいた点。
とても楽しく受けれたと思っています。

令和５年星槎道都大学　学務課調べ

上記の通り，21 生や 22 生に見られた本講義をどのように履修すればいいのかを理解していないような不安を感じさせるコメントはない。単位認定試験の結果は以下の通り。

	経営学総論　結果比較（実数表示：再履修者＆未受験者を除く）															
		試験の得点比較					総合評価					グレード分布				
	対象学生	平均点	最高点	中間点	最低点	モード	平均点	最高点	中間点	最低点	モード	S	A	B	C	F
2023 年度 1 年生	100	72.17	90	78	14	87	79.61	94	79	41	79	3	41	41	10	5

2024 年小職作成

上記 23 生の GPA は 2.1619 であった。小職的にはターゲットレンジ 2.0〜2.5 の間に入っているのでこの結果に不満はない。

④．直近 3 年間の実態比較

先ず，３年間の単位認定試験結果をご覧いただきたい。

	経営学総論　結果比較（実数表示：再履修者＆未受験者を除く）																
		試験の得点比較					総合評価					グレード分布					
	対象学生	平均点	最高点	中間点	最低点	モード	平均点	最高点	中間点	最低点	モード	S	A	B	C	F	GPA
21 生	146	68.54	91	74	4	81	78.39	96	79	17	70	15	50	64	12	5	2.397
22 生	114	70.52	100	68	8	82	73.07	100	71	23	73	7	37	32	38	0	2.114
23 生	100	72.17	90	78	14	87	79.61	94	79	41	79	3	41	41	10	5	2.161

2024 年小職作成

上記データの試験結果で標準偏差をとってみると 21 生の STD が 18.730，22 生の STD は 18.732，23 生の STD は 17.610 となっている。この結果からこの 3 年間で平均点が微増し STD が微減を示していてなおかつ得点モードが上昇しているにもかかわらず GPA が下がっているということは，総合評価時における試験の得点割合以外のところで評価を下げていることを示している。

ではこの「試験の得点割合以外」とは何を指しているのか。本科目の場合，それは平常点における出席率と授業内容のデータベース化，すなわち日常の学習クオリティが低下しているに他ならない。上記のグレード分布をパーセンテージで表したものが下の表になる。

グレード分布（%）					
S	A	B	C	F	GPA
10.3	34.25	43.84	8.22	3.42	2.397
6.14	32.46	28.07	33.33	0	2.114
3	41	41	10	5	2.161

ここで注目してほしいのは S グレードの割合が確実に減少していることと B グレード以下がほぼ 60％で安定していることである。本学の大規模クラスでは S グレードと A グレードが併せて 40％を超えないこと。できれば S グレードは 10％，A グレードは 30％を超えないことが望ましいといったグレードに関するガイドラインがある。しかしながら，本科目においてはこのガイドラインを念頭に置いた総合評価の調整等は行っていない。加えて，このガイドラインは履修学生の総数に対する割合であってカリキュラムマップにおける指定学年（本科目における初年次学生）を対象としたものではない。

4．現状で導き出される結論

前項で「試験の得点割合以外」がコロナ禍の影響を受けていると述べた。実際，平均点や得点モードが上昇しているのに S グレードの割合や全体の GPA が下がるなど本来なら有り得ないことである。にも拘わらずそれが起きてしまう原因

がどこにあるのか。それは，日々の学習方法と姿勢がコロナ禍の悪影響を受けたに他ならない。

まずコロナ禍の最大の悪影響は研究室に質問に来る学生が消滅したことである。コロナ禍で接触を控えるようあらゆる場面で教育されてしまったため，研究室に足を運んで担当教員に質問するという行動を全くとらなくなってしまった。100％メールやチャットでの質問に取って代わられてしまった。せめて画像通話や音声通話にできないものだろうか。文字化したコミュニケーションでは誤解や勘違いが生じる可能性を排除できない。

加えて，その科目の勉強方法が分からない。もしくは高校までの勉強方法が正しいと思い込んでしまっているのではないか。この点に関してはスタートアップ演習でかなり詳しく，しつこく説いているのだが中々学生に浸透していない。大学生の本分は，調べることにあるのだが……。

前出のデータを見る限り，コロナ禍を経験した学生において，試験に関する限りコロナ禍の影響をあまり受けていないように思われるが，これは単位認定試験直前に行うテストリビューの影響が大きいものと思われる。最悪，合格点は取れるようにポイント解説を行うのだがコロナ禍の経験が長ければ長いほどこのリビューだけを確実に行い，それ以外のところはほとんど捨ててしまう。これが災いして試験における得点モードは上昇するものの，Ｓグレードをとるまでには至らない学生を生む状況を作り出しているものと思われる。このテストリビューに関してはさらなる分析が必要である。

また，今回のデータには表れないが単位認定試験を受験することができない学生や正当な理由なく単位認定試験を欠席する学生がいることである。これらの学生はすべてＦグレード（単位認定不可）となる。このような学生は，21 生で１名，22 生で５名，23 生で７名とコロナ禍の影響を長く受けた学年ほど多い。原因は『欠席』である。近年の学生には欠席に対する損得勘定が欠如している。たった 15 回しかない授業を１回欠席するということは７％弱の知識を得る機会を失うだけでなく，その回の講義に関連する事項及びその回以降の講義に関する連続性･継続性･関連性を纏った重要な何かを失ってしまう。単なる 1/15 ではないことにまるで意識がない。

５．課題

高校までのリモート授業は同時受講者が 50 名を超えることはまずないであろう。しかしながら大学での大規模クラスでは同時受講者が 100 名を超えることは珍しくない。これだけの人数を常時接続で対面形式を保つのはかなり難しい。学生側からは PC や携帯の画面を通して通常授業に近い状態で教員の講義を受けることができるが，教員の側からは全学生を動画状態で１度に確認することはかなり難しい。ここに対面授業では有り得ない隙が生まれることとなる。すなわち，テレビやラジオまたはユーチューブやその他の SNS を視聴する感覚で講義に参加し，『面白かった！』『面白くなかった。』といった程度の感想しか残さないで授業を終えてしまうのである。

小職が思うに，学習とは理解することであり自分の言葉で記憶することである。暗記とは学習ではなく，単なる作業である。本学の学生にはこの違いを分かっていただきたい。学習とは多くの場合，「面白くあるべき」ものであり時間と労力，手間と暇をかけて，工夫しつつ身に付けることなのである。今までの 12 年間と大学での４年間における最大の違いがここに集約されるべきである。本学の学生諸君は，このことをどこまで体得し実感しているのだろうか。

６．終わりに

本学は全ての講義をリモートで行うといった悲劇に見舞われなくて済んだ数少ない大学の１つである。しかしながら，間違いなくコロナ禍の影響を受けたし，コロナ禍の影響を受けた学生を受け入れている。現状，リモートでの問題点は対面で克服するしかないが，今後のリモート授業に対し

て成し得る限りの準備をしなければならない。また，新たな遠隔授業の構築に向けて我々教員は，あらゆる機会を通じてヒントを得る努力をしなければならない。

この研究ノートを執筆するにあたってデータを提供いただいた本学学務課に深謝するとともに，今後の授業分析に関する協力をお願いして末筆とする。

7．参考文献

・©一般社団法人共同通信社　47News　2020/09/18　退学希望者が続出「幻滅大学」の酷すぎる実態　コロナで浮き彫りになった格差
・星槎道都大学　授業評価アンケート 2021
・星槎道都大学　授業評価アンケート 2022
・星槎道都大学　授業評価アンケート 2023

A Study of Adverse Effects of the COVID-19 Pandemic on the Subject of “Principles of Business Administration”, a Required Subject of the Faculty of Management of Seisa Dohto University

SHINANO Yoshihiko

Abstract

This paper attempts to study educational conditions of Seisa Dohto University under the COVID-19 pandemic. The paper analyzed the effects of the COVID-19 pandemic on the subject of “Principles of Business Administration”, a required subject of the faculty of management of SDU during the period between 2021 and 2023.